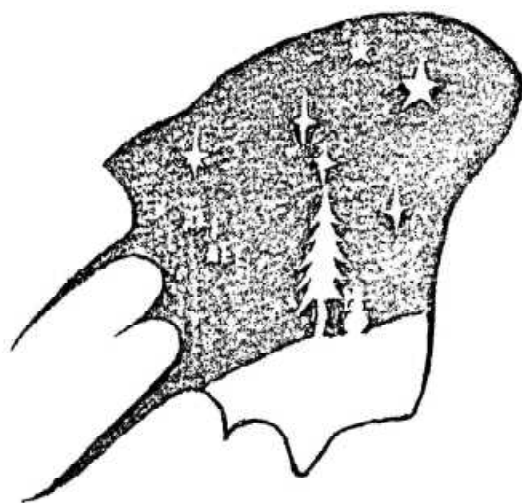

すずむし

SUZUMUSHI

Vol. 4 No. 12

1954年 12月



倉敷昆虫同好会

目 次

- ☆ 西大寺附近産甲虫数種 赤 枝 一 弘 (1)
- 1954年の会回額 小 野 洋 (1)
- 採取許可額様式 松 井 俊 公 (2)
- (news. 雑誌紹介)
通信・会報 (3-4)
- 編集後記 (4)

西大寺附近産甲虫数種

赤 枝 一 弘

1. *Meloe fuscus japonicus* Hainold ママトモンシデムシ。本種は普通種だそうであるが西大寺附近に於ては稀のようで私が1952年に1頭採集したのみである。
2. *Purpuricenus (Starnopisus) spectabilis matsushiki* ヘリグロベニカミキリ 1954. 5. 23. 巻の口にて一頭採集
3. *Chlorophorus notabilis* Roscoe キイロトラカミキリ 1954. 6. 24. 自宅へ7頭飛来、あまり見かけないので発表する。
4. *Leptis magnus* Matsushiki オオゴムシ 1950. 7. 29. 西大寺翠島 1頭 生物部(西高) 1953. 西大寺杖庭 1頭 赤枝、西大寺地方に於て私の知り得るはじめて上記の2種の記録があり、まださがせば採集出来そうだと。
5. *Camponotus chinensis* Kirby エソカタビロオサムシ 1954. 6. 30 向米州でオ、ヨツホシゴムシの記録があるのでそれを目標として採集に行つて偶然にも石の下で1頭採集した。 三角州で典型的な草塚

1954年の
会 回 顧

本年は地球上に、それが自然的にしろ人為的にしろ、とにかく人類にとって不幸な事件が続発したように、本会にとって決して運命北の方ではなかったようだが。

元旦から意気だけは盛んで、いたるところで氣勢を揚げていたが、ふたをあげて見るとどうにも動きがとれなくて、とれもこれも計画倒れになってしまったと云ふ形である。昨年来に来年こそは期待せよせよと高い気持で幹事進として、誠に汗顔の至りであった。なほと云つても時間が無い事が

会員諸兄弟にとつても共通の悩みであつたらう。こうした状態で本年は会合らしいこともなく、会主催としての採集会も一度も持つことなく終つた。その中であつて、ただ会誌の発行と言う事業のみは、よたよたとしたかほさい参加ではあつたが、占にもかくにも驚けることができた。

第4巻第1号、第2号はそれぞれ広田氏、青野氏の論文から印刷努力によつて出んが、この頃から、就職に入試にと警備を極めるようになつたので、後のことも考えて、思切つて印刷をプロに任せようことになり、同時にこの隆一が体裁も装束しようと言ふことで、志屋開けのようになつたのである。第3号は中が田さんから印刷した。

4月に于つて無藤氏は愛媛学に入学した

ので齋倉、広頼氏は来年受験して自然活動を制限せられ、友野氏はラジオ山陽に昨年からの勤務。一日おきの夜勤で、殆んどこちらへ手が回らない。齋野氏と小生は市外の学校へ就職したが、日曜日でさえないかなか仕事を离れることが出来ない。……と言う状態で、必然的に会の活動は衰微してしまつた。

特に岡大農業生物研究所にあつて活躍せられていた中塚憲次氏は東京の農林省農薬検査所へ御栄転、高倉。

学校が夏休暇になるまで採集もさして盛んでなかつたが、それでもセフィルスの境には黒田、福山あたりは眠つた。夏休暇になれば、山へ向う足は忙しく、岡大附中の平田先生は例によつて中、四国山脈を満歩。松井氏は遠く大雪山へ足を運んで、ネツトを振られた。もつとも採集が主体の旅ではなかつたとのこと。又小川、井手両氏等はアルプスに、齋野氏は大山に専ら個人的にはなかなか盛んで、今年

は殊に遠征が目立つたようだ。

水島地区で活躍せられていた船越氏は愛知県に居を転ぜられ、益々愈々の虫屋は減少した。又岡山の黒田先生は広島三菱病院から再び、岡大附属病院へ帰られたが、夢忙で昆虫に手が回らないとのことである。

こうして大した働きのないままに流れに流れて、はや朝らしい年を迎えようとしてゐるわけである。(小野 洋)

理 化 学 器 械	生物・地学標本模型	テ ー プ コ ー ダ ー
	昆虫採集用具	
	テレビ・ラジオ・真空管	
	~~~~~	
	島津製作所岡山県代理店	
<b>サカ工商会</b>		
倉敷市栄町 ( 荒木病院西 ) 電 973番		

## 採取許可願様式

### 高山植物採取許可願

1. 採集地
2. 採集期間
3. 採集に必要とする理由
4. 採集する植物名及び数量

上記の通り採集することを許可されたい

昭和 年 月 日

住所

私章  
生年月日

氏名

印

何々営林局又は 林務課長 殿

これに更に身分証明書として、学校長の証明書を何々と研究にたずさわりの採集をすることが必要であることの証明書が必要です。

以記は植物であるがこの方法は昆虫、動物、鉱物いづれも適用されるものであります。

これは特に取しまりのきびしい旭川管轄局区内の方法ですが、その管轄局なり又は管轄局にて、その方法をくわしく尋ねるのが最も妥当でしょう。

## 日本昆虫学会中国支部第2回例会

### 開かる

昨年6月7日に行われた第1回例会に引き続き、本年12月12日、岡大農学部書虫学研究室に於て開催された。講演題目は次のとおり。

- (1) モンシロチョウの排泄物色素に関する二、三の知見 松本 義明
- (2) *Tibeyulachnus* sp. について 森津 弥四郎
- (3) 高温の殺虫殺菌に関する研究 第14報 清水 正夫
- (4) 加古川—由良川低地帯に於けるニジウマホシテントウ *Epilachna Spalyse* の分布について 安江 安直

- 蝶研究今後の指針 盤瀬 太郎
- 昆虫の楽しみ 加藤 正世
- 捕虫網 小野 宏文
- フアーブルのこと 渡辺 崇
- 中支昆虫紀行(1) 白畑孝太郎
- その他短報

送來に蝶類博物館研究報告第16号がついている。内容は

- 1. セミタケ類の産地記録
  - 2. リンゴに蟬の産卵
- 尚昆虫趣味の会への入会申込、会費の送り先は、東京都新宿区早稲田町4-2  
明玄書房内昆虫趣味の会庶務課  
原稿、通信券の送り先は、

東京都練馬区石神公園  
昆虫趣味の会  
となつております。

## 『昆虫界』

### 第120号御紹介

復刊第1号(第12巻第119号)に続いて第120号が出た。内容の大略は次のとおり。

- 写真 昆虫アルバム 加藤正世(岡かた)
- 松江附近の蝶 中井 衛
- アカザにゴールをくぐる蛾 加藤正世
- アリの引越し 八幡英郎・林福治
- 瑤越誠・大橋法滋

志 器 製 品

昆虫 植物 採集用具

理化学器機

◇

岡山市西中山下(堀川交差点東)

**長瀬教育堂**

電話 4725番

## 通 信

11月号から更に読みよい印刷に変えたいときえ、準備いたしておりますので御期待下さい。

前略。このたびは「すずむし」六月—十月号をお送り下され、ありがたく拜受厚くお礼申上ます。早速面白く全部精読いたしました。号を追って体裁も整い、たとい頁数は少くとも毎月出されることは地方誌として意義あることと存じ深く敬意を表します。

倉敷市内にフロツバメツジミが多く、これが屋上の食草と関係あることは大変面白く、この点について両者の生態的向糸、特にツメレンゲの市内分布などを研究して頂くと面白いことと思います。

右お礼まで 江崎 栞二

### 1955年度 会費について

来年度の本会々費は従前通り月15円、年180円といたします。但 送附御希望の方は1回分8円送料を別にお送り下さいます様お願いいたします。「すずむし」の内訳な発行は会費の納入状況によつても大きく左右されますので、できる限り早目に御納入下さいますようお願いいたします。

### 編 集 後 記

12月号をお届けいたします。大変発行が遅れました事を深くお詫びいたします。

すずむし 第4卷 第12号

昭和29年12月30日印刷

昭和29年12月30日発行

編集兼  
発行 者

倉敷市住吉町 岡山大学農業生物研究所

害虫学研究室内

倉敷昆虫同好會